

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-131039

(43) 公開日 平成8年(1996)5月28日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

A 0 1 K 97/10

識別記号

Z

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 4 F D (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平6-293968

(22) 出願日 平成6年(1994)11月2日

(71) 出願人 594195340

田中 耕一

北海道釧路郡釧路町曙3丁目7番10号

(72) 発明者 田中 耕一

北海道釧路郡釧路町曙3丁目7番10号

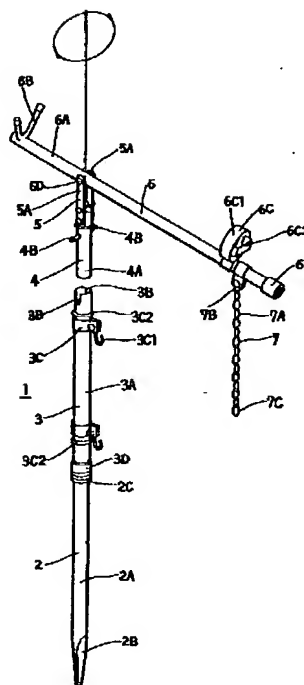
(74) 代理人 弁理士 川成 靖夫

(54) 【発明の名称】 釣竿立て

(57) 【要約】

【目的】 釣竿立てを起立状態にセット後、その状態で釣竿の支持角度を自由に代えることができるなどの効果を有する釣竿立ての提供を目的とする。

【構成】 支持脚2と、この支持脚に一体あるいは分解自在に垂直方向に連設された中心パイプ部3と、この中心パイプ部に回動かつ昇降自在に上方から嵌合された作動パイプ部4と、この作動パイプ部に起伏自在に枢着された連結部5と、この連結部に揺動自在に枢着された竿受部6と、この竿受部の支持角度を固定するチェーン7とから構成されている。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 支持脚(2)と、この支持脚の上端に一体あるいは分解自在に垂直方向に連設された中心パイプ部(3)と、この中心パイプ部の上端に回動かつ昇降自在に上方から嵌合された作動パイプ部(4)と、この作動パイプ部の上端に起伏自在に枢着された連結部(5)と、この連結部の上端に揺動自在に枢着された竿受部(6)と、この竿受部の支持角度を固定するチェン(7)とから構成されていることを特徴とする釣竿立て。

【請求項2】 支持脚(2)は、所定高さに構成された縦パイプ(2A)の下端に当該縦パイプを扁平に潰して側面略V字状にした尖先(2B)が構成され、上端には中心パイプ部(3)の下端に設けたネジ(3D)に螺合するネジ(2C)が形成され、中心パイプ部(3)は、所定高さに構成された縦パイプ(3A)と、中心パイプ部の上方端面に当該縦パイプ(3A)の左右位置をもって刻設された側面略V字状の縦切込み(3B)と、中心パイプ部(3)の上方部分に回動自在に添着されたバンド(3C)と、このバンド(3C)に連結されているフック(3C1)と、縦パイプ(3A)の下端部分に設けられたネジ(3D)とから構成され、作動パイプ部4は、中心パイプ部(3)内に上方から遊嵌する縦パイプ(4A)と、この縦パイプ(4A)の左右側面にほぼ中央高さの位置をもって水平に突設した左右の丸棒状の突起(4B)と、縦パイプ(4A)の上方後面部分に形成した側面略L状の段部(4C)とから構成され、連結部(5)は、作動パイプ部(4)を左右から挟む左右の縦長短冊状の板(5A、5A)で構成され、これら両板(5A、5A)の下端は左右の丸棒状の突起(4B)と平行なピン(5B)で作動パイプ部(4)における段部(4C)近傍に連結され、両板(5A、5A)を連結する中間ピン(5C)は、ピン(5B)と平行に構成されると共に、この両板(5A、5A)をピン(5B)を中心に起立させた場合、当該中間ピン(5C)が段部(4C)の角部(4C1)に当接するよう構成され、竿受部(6)は、所定寸法のパイプ(6A)と、このパイプ(6A)の上面先端に植設された正面略V状の先端受(6B)と、パイプ(6A)の上面後端近傍に突設された竿尻受(6C)とからなり、この竿尻受(6C)は正面円形の短筒(6C1)と、この短筒の背面に張設した横板(6C2)とから構成され、このパイプ(6A)は、当該パイプ(6A)の中心より少しく前方位置をもって中間ピン(5C)と平行なピン(6D)で連結部(5)における左右の縦長短冊状の板(5A、5A)に連結され、チェン(7)は、リンク(7A)を連結したクロスチェンで構成され、その一端(7B)は竿受部6の後端に連結され、また、他端(7C)側は中心パイプ部(3)におけるフック(3C1)に係脱自在に連結されている請求項1記載の釣竿立て。

【請求項3】 支持脚(2)に代えて、基板(21A)の四隅に伸縮自在の脚(21B)を取付けた支持脚(21)とした請求項2記載の釣竿立て。

【請求項4】 竿受部(6)のパイプ(6A)の後端には、支持脚(2)の縦パイプ(2A)におけるネジ(2C)に螺合するネジ(6E)が形成されている請求項2記載の釣竿立て。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

10 【産業上の利用分野】本発明は、釣竿立てに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、この種のものにあつては、下記のようなものになっている。海に向かって釣竿の支持角度を固定するように構成されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来の技術で述べたものにあつては、下記のような問題点を有していた。

1. 釣竿の角度を変える場合、その都度移動しなければならない。
2. 餌付けの時、釣針の位置と餌置き場とが離れた状態になる。

本願は、従来の技術の有するこのような問題点を鑑みなされたものであり、その目的とするところは、上述の問題を解決できるものを提供しようとするものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明は下記になるものである。すなわち、本願のものは、支持脚2と、この支持脚の上端に一体あるいは分解自在に垂直方向に連設された中心パイプ部3と、この中心パイプ部の上端に回動かつ昇降自在に上方から嵌合された作動パイプ部4と、この作動パイプ部の上端に起伏自在に枢着された連結部5と、この連結部の上端に揺動自在に枢着された竿受部6と、この竿受部の支持角度を固定するチェン7とから構成されている釣竿立てである。この場合、下記のようにすることができる。

- 第1. 支持脚2は、所定高さに構成された縦パイプ2Aの下端に当該縦パイプを扁平に潰して側面略V字状にした尖先2Bが構成され、上端には中心パイプ部3の下端に設けたネジ3Dに螺合するネジ2Cが形成され、中心パイプ部3は、所定高さに構成された縦パイプ3Aと、中心パイプ部の上方端面に当該縦パイプ3Aの左右位置をもって刻設された側面略V字状の縦切込み3Bと、中心パイプ部3の上方部分に回動自在に添着されたバンド3Cと、このバンド3Cに連結されているフック3C1と、縦パイプ3Aの下端部分に設けられたネジ3Dとから構成され、作動パイプ部4は、中心パイプ部3内に上方から遊嵌する縦パイプ4Aと、この縦パイプ4Aの左右側面にほぼ中央高さの位置をもって水平に突設した左

右の丸棒状の突起4Bと、縦パイプ4Aの上方後面部分に形成した側面略L状の段部4Cとから構成され、連結部5は、作動パイプ部4を左右から挟む左右の縦長短冊状の板5A、5Aで構成され、これら両板5A、5Aの下端は左右の丸棒状の突起4Bと平行なピン5Bで作動パイプ部4における段部4C近傍に連結され、両板5A、5Aを連結する中間ピン5Cは、ピン5Bと平行に構成されると共に、この両板5A、5Aをピン5Bを中心に起立させた場合、当該中間ピン5Cが段部4Cの角部4C1に当接するよう構成され、竿受部6は、所定寸法のパイプ6Aと、このパイプ6Aの上面先端に植設された正面略V状の先端受6Bと、パイプ6Aの上面後端近傍に突設された竿尻受6Cとからなり、この竿尻受6Cは正面円形の短筒6C1と、この短筒の背面に張設した横板6C2とから構成され、このパイプ6Aは、当該パイプ6Aの中心より少しく前方位置をもって中間ピン5Cと平行なピン6Dで連結部5における左右の縦長短冊状の板5A、5Aに連結され、チェーン7は、リンク7Aを連結したクロスチェーンで構成され、その一端7Bは竿受部6の後端に連結され、また、他端7C側は中心パイプ部3におけるフック3C1に係脱自在に連結することができる。

第2. 支持脚2に代えて、基板21Aの四隅に伸縮自在の脚21Bを取付けた支持脚21とすることができる。  
第3. 竿受部6のパイプ6Aの後端には、支持脚2の縦パイプ2Aにおけるネジ2Cに螺合するネジ6Eを形成することができる。

#### 【0005】

【作用】本発明のものは下記のように作用する。

1. 図1のごとく、支持脚2を直接地面に植設使用する。
2. 図2のごとく、4本の支持脚21を直接地面に植設使用する。
3. 図3を参照して、実線のようにチェーン7をフック3C1に係止すると、竿8の先端に荷がかかった状態になるから、その支持角度で固定される。この場合、チェーン7の長さを伸縮させることで、支持角度を適宜変化させることができる。また、図3における破線のようにフック3C1の位置を下方に降下させても、支持角度を適宜変化させることができる。さらに、図1を参照して、竿を装着したまま竿受部6を上方に引上げて作動パイプ部4を中心パイプ部3から離脱させたのち、この竿受部6を360度回転させて降下させると、作動パイプ部4は中心パイプ部3に連結されることになる。この状態にして、餌付け作業、糸通し作業、魚を釣針からはずす作業など所望する作業を行う。なお、この場合、後述のように略V字状の縦切込み3Bを、縦パイプ3Aの左右位置のほか前後位置に平面十文字状に刻設したものにあっては、竿受部6を180度回転させることができることになる。

4. 図5のごとく、竿受部6のパイプ6Aにおけるネジ6Eを支持脚2の縦パイプ2Aにおけるネジ2Cに螺合連結して一本ものとして使用する。

#### 【0006】

【実施例】実施例について図面を参照して説明する。1は本発明の釣竿立てで、支持脚2と、この支持脚の上端に一体あるいは分解自在に垂直方向に連設された中心パイプ部3と、この中心パイプ部の上端に回転かつ昇降自在に上方から嵌合された作動パイプ部4と、この作動パイプ部の上端に起伏自在に枢着された連結部5と、この連結部の上端に揺動自在に枢着された竿受部6と、この竿受部の支持角度を固定するチェーン7とから構成されている。

【0007】支持脚2は、所定高さに構成された縦パイプ2Aの下端に当該縦パイプを扁平に潰して側面略V字状にした尖先2Bが構成され、上端には中心パイプ部3の下端に設けたネジ3Dに螺合するネジ2Cが形成されている。この結果、支持脚2と中心パイプ部3とは、縦ぎ足し自在に構成されていることになる。この場合、この支持脚2は、図2のごとく基板21Aの四隅に伸縮自在の脚21Bを取付けた支持脚21とすることができる。そして、この脚21Bは、公知のカメラの三脚における脚と同一構造を採用して伸縮自在に構成されている。

【0008】中心パイプ部3は、所定高さに構成された縦パイプ3Aと、中心パイプ部の上端面に当該縦パイプ3Aの左右位置をもって刻設された側面略V字状の縦切込み3Bと、中心パイプ部3の上方部分に回転自在に添着されたバンド3Cと、このバンド3Cに連結されているフック3C1と、縦パイプ3Aの下端部分に設けられたネジ3Dとから構成されている。なお、3C2はバンドの上下方向への移動を規制する上下の突条である。また、図示のものは略V字状の縦切込み3Bが、縦パイプ3Aの左右位置をもって刻設されたものとなっているが、縦パイプ3Aの左右位置のほか前後位置に刻設することもできる。この結果、縦パイプ3Aには平面から見て略V字状の縦切込み3Bが十文字状に刻設されていることになる。

【0009】作動パイプ部4は、中心パイプ部3内に上方から遊嵌する縦パイプ4Aと、この縦パイプ4Aの左右側面にはほぼ中央高さの位置をもって水平に突設した左右の丸棒状の突起4Bと、縦パイプ4Aの上方後面部分に形成した側面略L状の段部4Cとから構成されている。この結果、左右の丸棒状の突起4Bは側面略V字状の縦切込み3Bに係脱することになる。連結部5は、作動パイプ部4を左右から挟む左右の縦長短冊状の板5A、5Aで構成され、これら両板5A、5Aの下端は左右の丸棒状の突起4Bと平行なピン5Bで作動パイプ部4における略L状の段部4C近傍に連結され、両板5A、5Aを連結する中間ピン5Cは、ピン5Bと平行に

5

構成されると共に、この両板 5 A、5 A をピン 5 B を中心に起立させた場合、当該中間ピン 5 C が段部 4 C の角部 4 C 1 に当接するよう構成されている。

【0010】竿受部6は、所定寸法のパイプ6Aと、このパイプ6Aの上面先端に植設された正面略V状の先端受6Bと、パイプ6Aの上面後端近傍に突設された竿尻受6Cとからなり、この竿尻受6Cは正面円形の短筒6C1と、この短筒の背面に張設した横板6C2とから構成されている。そして、このパイプ6Aは、当該パイプ6Aの中心より少しく前方位置をもって中間ピン5Cと平行なピン6Dで連結部5における左右の縦長短冊状の板5A、5Aに連結されている。さらに、このパイプ6Aの後端には、ネジ2Cに螺合するネジ6Eが形成されている。

【0011】チェーン7は、リンク7Aを連結したクロスチェーンで構成され、その一端7Bは竿受部6の後端に連結され、また、他端7C側は中心パイプ部3におけるフック3C1に係脱自在に連結されている。

【0012】

【発明の効果】本発明は、上述の通り構成されているので次に記載する効果を奏する。

1. 釣竿立てを起立状態にセット後、その状態で釣竿の支持角度を自由に代えることができる。釣竿立てを植設

6

して立てたままの状態、クロスチェンにより角度を調整できる。

2. 餌を付ける時、釣竿を反転できるので、餌置き場で餌付け作業をすることができる。また、糸通し作業もしやすい。

3. 中吊りの状態で餌を付けることができると共に、魚を釣針からはずすことができる。

4. 分解してコンパクトにして運搬格納することができる。

10 【図面の簡単な説明】

【図1】分解斜視図である。

【図2】他の実施例の要部斜視図である。

【図3】要部拡大側面図である。

【図4】作用を説明する1部を破断した側面図である。

【図5】他の実施例の斜視図である。

【符号の説明】

## 1 釣竿立て

## 2 支持脚

### 3 中心パイプ部

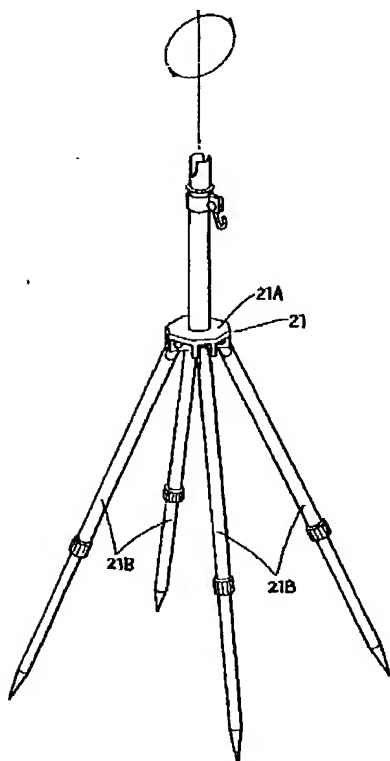
#### 4 作動パイプ部

## 5 連結部

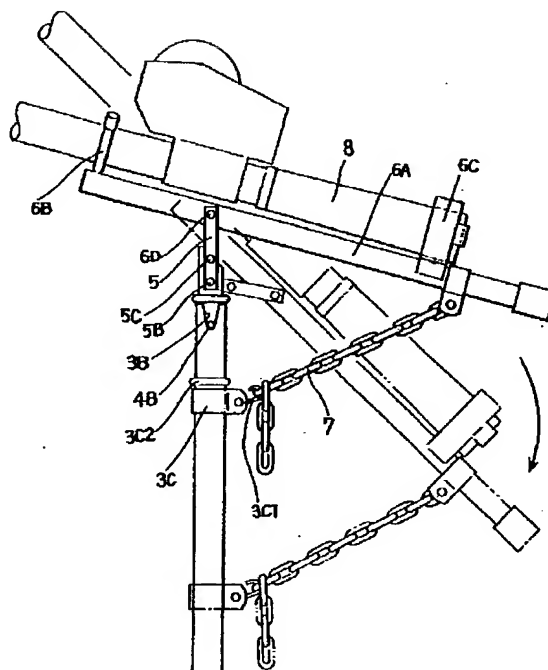
## 6 竿受部

7 チェン

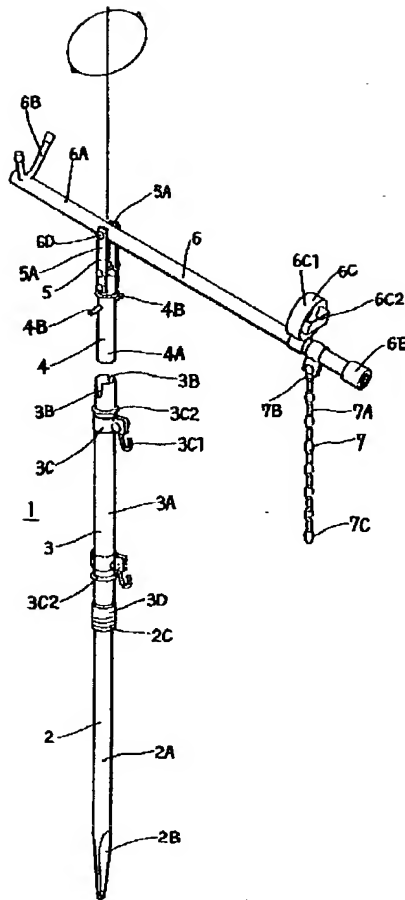
【图2】



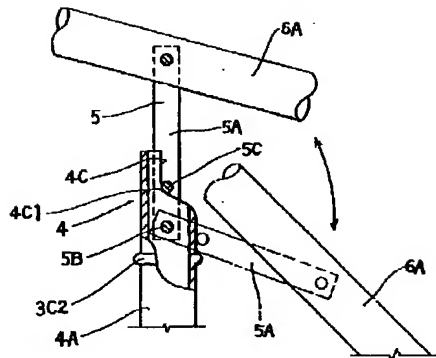
【図3】



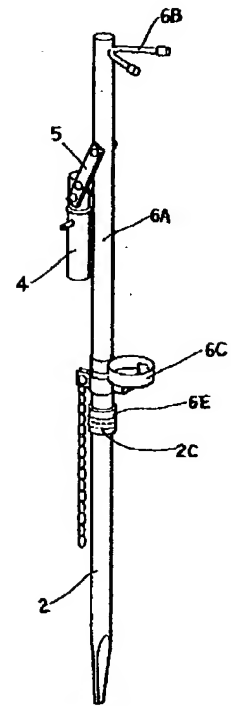
【図1】



【図4】



【図5】



PAT-NO: JP408131039A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 08131039 A  
TITLE: STAND FOR FISHING ROD  
PUBN-DATE: May 28, 1996

INVENTOR-INFORMATION:

NAME  
TANAKA, KOICHI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
TANAKA KOICHI	N/A

APPL-NO: JP06293968  
APPL-DATE: November 2, 1994

INT-CL (IPC): A01K097/10

ABSTRACT:

PURPOSE: To obtain a stand for a fishing rod, being set in a standing state, having effect of freely changing the supporting angle of the fishing rod in a set state of the stand.

CONSTITUTION: This stand for a fishing rod comprises a supporting leg 2, a central pipe part 3 connected in the vertical direction to the supporting leg in an integrated way or disassembly-free way, an operation pipe part 4 rotatably and liftably engaged with the central pipe part from above, a connecting part 5 inclinably pivoted orb the operation pipe part, a rod receiving part 6 rockingly pivoted on the connecting part

and a chain 7 for  
fixing the supporting angle of the rod receiving part.

COPYRIGHT: (C)1996, JPO